

模擬国連 大使役で討議

松本秀峰

松本市の松本秀峰中等教育学校5年生（高校3年生）の河合輝君（17）と山田真緒さん（16）が、全日本高校模擬国連大会に出場する。高校生が世界各国の大使役となって、本物の国連の会議と同じように公用語の英語で議論や交渉を行う大会で、今年は「武器の移転」をテーマとした討議に臨む。（田子元気）

夢実現へ 全国大会に意欲

大会は東京都渋谷区の国連大学本部で11月17日と18日に開かれ、書類選考を通過した2人一組の86チームが出場する。参加チームには国が割り当てられ、事前に調べたその国の情報を基に自国の主張を展開する。最終的に「成果文書」を取りまとめることが目的で、議場の交渉力や発言力、リーダーシップといった能力が評価される。上位6チームが来年5月にニューヨークの国連本部で開催される世界大会に進む。河合君と山田さんは国



大会に向けて打ち合わせをする河合君(左)と山田さん

際機関で働きたいとの目標を持ち、大会に興味を持った。書類選考では課題図書の要約や過去の国際会議のレポート、政策立案といった課題を分担し、本大会への出場を手にした。河合君は8月に別の模擬国連大会に先輩と出場した経験もある。松本秀峰中等教育学校から3年ぶり2回目の出場となる。河合君は「自分たちの国の考え方をしっかりと固めた上で大会に臨みたい。全国の高校生たちとの交流も楽しみ」と話し、山田さんは「大会を経験することで交渉力を身につけ、国際的な仕事をするという将来の夢につながっていきたい」と意気込んでいる。